

まがくしく	八、六九	松君ゐて奉る	四七九	まめごと	三〇
まさぞめ	一三	まづ心もおこさる	二九	まめやかにさいなむ	一八一
まぐらがみ	六九	まづしりなるこそは	四三	まめやかにふる	二九
枕にこそ	三三	まづしるさまを	三六	まゆにこもりたる	一〇
まことにさありし	三九	松の葉色したる	四三	眉ぬく	一八三
まことや下野にくだる	三二	松の尾	四七	眉はひたひに	三六
まさな	三七	松につけたる	一五	まゆみ	一〇九
まさなや	一四	まつはぐるめの	四九	まらうどる	五〇
まじらひする人	一	祭	一三	まろがしふる	一八八
益田の池	一〇五	祭のかへさ	一〇〇	まろこすけ	一四
ませごし	四四	祭のころ	二四	まろ屋	四八
ませてきるべき	五五	まどひしほほどに	四五	まらせて	五二
又いひふれん	五四	まどひとりいれしかど	四四	まわりなどして	三〇七
またのつとめて	三三	まどひまゐる	四〇	まゐる	三六九
又の日	一七	まなこゐなど	一〇	まゐる	三六九
またひさし	一五九	まねき制する	一五	申しなほす	四六七
又人のあらばこそ	五〇	まねび	八	申文	九
まだむご	四〇二	まひろけて	三三		
まぢかぬ山	一四	前はつほなれば	四六		
まぢつけて	四	まほにちかく	三三		
松がうらしま	三九〇	まゝ	三三		
松君	二六	まみ	一八三		

見えなどもせよかし	二九	みこどり	二四	つしどころ	一三
見おくられ	五	みこもりの神	四七	みづしま	三九〇
御格子まゐりわたし	一五二	御さうじ	四	御綱	四七
御神樂のをり	一〇九	見さめ	四	みつなのすけ	四〇
三笠山(みかさ山)	三、四三	みじくり出づる	三六	水なしの池	一〇四
みかどの御むすめ	一七	御修法は五大尊	四六	みづはしの渡	一〇
みかはやうど	二六	御すぎやう	五	みつばよつばの殿づくり	一〇
御几帳たてて	一五九	みそかに	四五	みつぶき	三九
右の人をこに思ひて	三六	みそかぬす人	二八	みづら	三三
御経佛供養	三三	みそひめ	三六	水ます雨の	四七
みくさる	三七	みたけ	二〇	みてぐら	四七
みぐしあけ	三〇	みたけさうじ	一四	みどきやうのけちぐわん	一八
みくしげ殿(御匣殿)	一五、四三、五八	見だにあはせば	一八〇	みどきやうのけちぐわん	一八
御ぐしなどまゐる	一五二	みち	四六	みどきやうのけちぐわん	一八
みくり	二二六	みちかた	一五	みどきやうのけちぐわん	一八
みくりといふ歌	一〇四	御帳に入らせ給ひ	三六	みどきやうのけちぐわん	一八
みくりの社	四三	みちのくがみ	七	みどきやうのけちぐわん	一八
御車ごめに	四七	道のまゝ	三九	みどきやうのけちぐわん	一八
御心おちることわりなり	四八	道もなし	三七	みどきやうのけちぐわん	一八
御輿	四九	御帳たてまつるもや	一〇	みどきやうのけちぐわん	一八
みことうちたる程	三九	水うみ	三〇	みどきやうのけちぐわん	一八
御琴もたりし人	四七	みづし	四六	みどきやうのけちぐわん	一八



みの蟲糞	三〇	宮の大夫殿	二九	むつかし	三九
養蠶のやうなる	三二	宮の中將	三五	むつかしかめれば	二五
三重がさねの扇	三三	宮のほざりに云々	三五	正月十日	二二
みほが崎	四八	宮のほとりのまつり	三五	正月のおほね	二〇
みまくさをの歌	五九	宮のめのさいもん	三三	むつまじき人	二四
みまなのなりゆき	二九	みやはじめのさはふ	二六	むとく	二六
みよと川	二六	みゆき	二六	むとくなるもの	二九
みよな草	二六	見るべき事ありて	一五	むとくにいなしたる	一六
耳なし山	二六	見るめの關	二九	むね	二七
耳をとなへて	二六	三輪の山	二四	むねたか	二七
みもひもさむし	二四	みろく	三五	むねつふる	二四
命婦のめのと	二五	身をかへたらん人	四七	むねなどもきれて	三五
宮城野	三五	みをなげけるを	一〇	むねのいみじうはしりける	三五
みやうじやう	四〇	みをほめられん	二	無名といふ琵琶	三八
みやこざり	二五			むらご	三
宮づかさ	一〇			むらごのくみ	一〇
御息所	三〇			紫	九
宮の	三五			紫革して	七
宮の御もぬがせ給へ	二六			紫だちたる雲	二
宮の五節	四八			むらさき野	五
	三〇			むらさきはみどり	六

[メ]

めだう	四九	木工のぞう	四八	物語したる	三五
めだち見たてられて	四九	牧馬	三〇	物がたりする人の兒	三三
めで	四九	もじあまり	三三	物語などして	二七
めでたきもの	二〇	もたりて	二四	物語もせよ	三三
めのと	二四	もたる	一七	物くらうなりて	三三
めのとのをとここそ	二四	もちかゆ	七	物ぐるほしかりける君	三六
目はそらにて	二六	もどかしき	四〇	物し	三六
目はたてざまにつき	二六	もとしこまに	八六	物しげに	四六
めもあやに	二六	もみすけが後の歌	四九	物しり世の中もさき	四七
めもあやにあさまし	二六	もとの心	二四	物つく	四七
目も見いれねば	二七	もとむといふ事を	五八	物でうぜさせばや	五七
めやすく	二七	求子	五八	物なき	二八
目をくばりつゝ	二七	もとめても	三九	物にたちまじり	二八
目をそらにて	二七	もとゆひよる	八六	物のぐ	二八
目をだに見あはせて	二七	もとよりのよすが	四九	物のけ	二八
		もみぢせん世や	四九	物のぞみ	二八
		物あはせ	二二	ものさまも	二八
		物いみなごくすしうするもの	二二	物の序	二八
		物忌なれど	四九	物の中	二八
		物おほえぬ事	三三	物の音	二八
			三三	物のえやう	二八
			三七	物のをり	二八



物のをりの扇	三〇	楊貴妃	一〇二	山ちかきの歌	四、四八
物へもゆく	三三	やうこそ	三六	山とよむ	三三
物へゆくをり	三六	やかう	三三	やまとのも(嬰麥)	三三
物まうで	三九	やかた	三〇	やまなしの木	二二
物見しり思ひしりたる女	四三	やかたなき車	三三	やまのうまや	四〇
物見にいでん	四八	やがてむつきて	三九	山の井	三〇
物々しう	五二	やぐがひ	三九	山井の大納言	二六
物もゆかしからん	五三	やくがひ	三九	山びこ	二六
物よくいふ陰陽師	五七	やくがひ	三九	山吹	二六
ものよくするあたり	五七	やくがひ	三九	山吹の花びら	三三
もよほされて	五九	やくがひ	三九	やまら	一四
もりいで	六〇	やくがひ	三九	やをら	三〇
もろよせの演	六〇	やくがひ	三九	やをら	三〇
もん	六四	やくがひ	三九	やをら	三〇
門のかぎり	六七	やくがひ	三九	やをら	三〇
文集	七〇	やくがひ	三九	やをら	三〇
文殊	七三	やくがひ	三九	やをら	三〇
文選	七四	やくがひ	三九	やをら	三〇
やうき	七五	やくがひ	三九	やをら	三〇

[十]

[十一]

ゆきなり	一〇	よきつゝみ	二二	よはひをのぶる齒がため	二二
雪山に	一〇	よき所の車	二二	夜ふかく	二二
ゆげひのすけ	一三	よき人ならば	二二	よみによむかし	二二
ゆだけ	一三	よき人の	二二	よりきころなく	二二
ゆたん	一五	よきをのこ	二二	よりふしぬる	二二
ゆづるはの峰	一六	よくてうじたる火桶	二二	よしまし	二二
ゆのはのごとく	一六	よこばしりの關	二二	夜ねおきてのむ水	二二
ゆふかみ	一七	よさのうみ	二二	よるのおと	二二
夕日の里	一七	よさり	二二	よるはたれとねん	二二
弓ならし	一八	よさりまかつる	二二	よろこびして	二二
ゆゝしき	一九	よしちか	二二	よろこび申する	二二
ゆゝしきもの	一九	よしなくの關	二二	よろこび申の日	二二
ゆゝしきもの	一九	よしの川	二二	よろしうだに	二二
ゆるぎの森	二〇	よしく	二二	よろしからんにてだに	二二
ゆるぎありき	二〇	よそに見る	二二	よろしき歌	二二
ゆるらかに	二〇	よそふる事ありて	二二	よろしき人	二二
ゆゑだちありく	二〇	よそめにても	二二	よろしき人だに	二二
【三】	二〇	よそめよりほかに	二二	よろづの調度	二二
ようせずば	二〇	よつあし	二二	よろづの所	二二
よかれがちなる	二〇	よぎの	二二	夜をこめての歌	二二
よきたき物たきて	二〇	淀のわたり	二二	よをりの藏人	二二
	二〇	よはひぼし	二二		二二



らいさうと 來年の國々 らいばん らうたがりて らうたく らうくしかりけるが らうくしう らうくしき らくそん らもん 蘭省花時	三〇 三〇 三〇 三〇 三〇 三〇 三〇 三〇 三〇 三〇 三〇 三〇	冷泉院 れいたう れいならぬ人 例の君 例のしりしよりも れいのはひふし 例の夜いたう 例の思ふ人 例のしとね れうのうへの袴	元 二九 西一 西二 西三 西四 西五 西六 西七 西八 西九 西〇	露臺 六卷 六觀音	三〇 三〇 三〇 三〇 三〇 三〇 三〇 三〇 三〇 三〇 三〇 三〇
【ラ】 らうさうの御給り 臨時の祭 臨時の祭の調樂 りんくとして	四六 四〇 三七 三〇 二七 二六 二五 二四 二三 二二 二一 二〇	六位の蔵人 六位の蔵人 六位のとのゐすがた 六位のとのゐすがた 六位の蔵人 六位の蔵人 六位のとのゐすがた 六位のとのゐすがた 六位の蔵人 六位の蔵人 六位のとのゐすがた 六位のとのゐすがた	三三 三二 三一 三〇 二九 二八 二七 二六 二五 二四 二三 二二	【リ】 るさうの名 るさうの御給り るさうの御給り るさうの御給り るさうの御給り るさうの御給り るさうの御給り るさうの御給り るさうの御給り るさうの御給り るさうの御給り るさうの御給り	四六 四〇 三七 三〇 二七 二六 二五 二四 二三 二二 二一 二〇

わたつ海の歌 渡殿 わなき 輪のまひたちたるに わびしく わびしけ わびしけに見ゆるもの わびて わらは わらはべのこふぎの わらはまひの夜 わりなし われから 我に御覽じあはせて われにもあらぬ心地すれば われはしりたりや 我をばおほさず	三三 三二 三一 三〇 二九 二八 二七 二六 二五 二四 二三 二二 二一 二〇 一九 一八 一七 一六 一五 一四 一三 一二 一一 一〇 〇九 〇八 〇七 〇六 〇五 〇四 〇三 〇二 〇一 〇〇	るさせ給ふまじ 井手 井手の中將 るはりたちあがり ゐるすなはち 院 るんふたぎ	三三 三二 三一 三〇 二九 二八 二七 二六 二五 二四 二三 二二 二一 二〇 一九 一八 一七 一六 一五 一四 一三 一二 一一 一〇 〇九 〇八 〇七 〇六 〇五 〇四 〇三 〇二 〇一 〇〇	【キ】 かしきすち かしき物 かしけなる がはの橋 小倉山 をさめ	三三 三二 三一 三〇 二九 二八 二七 二六 二五 二四 二三 二二 二一 二〇 一九 一八 一七 一六 一五 一四 一三 一二 一一 一〇 〇九 〇八 〇七 〇六 〇五 〇四 〇三 〇二 〇一 〇〇
【カ】 かきしきすち かしき物 かしけなる がはの橋 小倉山 をさめ	三三 三二 三一 三〇 二九 二八 二七 二六 二五 二四 二三 二二 二一 二〇 一九 一八 一七 一六 一五 一四 一三 一二 一一 一〇 〇九 〇八 〇七 〇六 〇五 〇四 〇三 〇二 〇一 〇〇	【ク】 くさくしく をしき 小鹽山 をすげさせうらをさせ をとこしう 男の心のうち 男はなにいろのきぬも をとこ山 をのこ をのこさも をのこのある 小野殿に 小野殿の母うへ 斧のえも をのうきはし 小野宮 尾花のやうなるそぎすゑ をふの小草 をみの君たち をりびつ をりもてぞ見る を	三三 三二 三一 三〇 二九 二八 二七 二六 二五 二四 二三 二二 二一 二〇 一九 一八 一七 一六 一五 一四 一三 一二 一一 一〇 〇九 〇八 〇七 〇六 〇五 〇四 〇三 〇二 〇一 〇〇	【ケ】 けしきすち かしき物 かしけなる がはの橋 小倉山 をさめ	三三 三二 三一 三〇 二九 二八 二七 二六 二五 二四 二三 二二 二一 二〇 一九 一八 一七 一六 一五 一四 一三 一二 一一 一〇 〇九 〇八 〇七 〇六 〇五 〇四 〇三 〇二 〇一 〇〇



女にあなづられて  
女はおのれを  
女繪  
三五  
二六  
七

枕草紙新釋索引 終

<p>和昭四年四月五日印刷 昭和四年四月十日發行</p>	<p>著者 永井一孝 發行兼印刷人 武藤欽 印刷所 京都市東區船場中町 文獻書院印刷所</p>	<p>發賣所 東京市神田區錦町一ノ一【振替東京六〇〇六一】 文獻書院 京都市下長者町油小路西【振替大阪六三〇九二】</p>
----------------------------------	-------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------

定校 枕草紙新釋  
定價金參圓五拾錢



著 生 先 孝 一 井 永 學 大 田 稻 早 教 授

定 校 枕 草 紙 新 釋

送 定 菊 價 判 料 三 圓 七 十 八 十 錢 錢 頁

定 校 增 鏡 新 釋

送 定 菊 價 判 料 三 圓 七 十 八 十 錢 錢 頁

明 治 文 學 史

送 定 菊 價 判 料 一 圓 八 十 錢 錢 頁

江 戶 文 學 史

送 定 菊 價 判 料 二 圓 四 十 五 十 錢 錢 頁

西 路 小 油 町 者 長 下 市 都 京 院 書 獻 文 一 一 町 錦 區 田 神 市 京 東 一 番 一 六 〇 〇 六 京 東 區 口 替 振



終